

令和2年度上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会

第2回市民啓発部会を開催しました



○9月25日（金）上越市福祉交流プラザにて、第2回市民啓発部会を開催しました。参加者は、部会メンバー7名と在宅医療推進センターコーディネーター1名、事務局3名でした。

○第1回の部会では、部会の目標を「市民が思っていることや大切にしたいことを考え、言語化し、家族や専門職と共有できる」とし、令和2年度は「啓発方法の検討」、令和3年度は「啓発内容の見直しと作成」、令和4年度は「新たな普及啓発の実施と検証」としました。

○第2回の部会では、令和元年度に実施した市民講座のアンケート結果の振り返りと、「在宅医療・介護連携推進事業の手引き」より地域住民への普及啓発を確認しました。

その上で、具体的な啓発活動に向け、

- ① 誰をターゲットにするか
- ② 何を啓発するか
- ③ どのように啓発するか

について、意見交換を行いました。

【誰をターゲットにするか】

『若い世代が良いのではないか』

- ・サロンに来ないような40歳～50歳代。
- ・60歳前後くらい。

- ・介護保険料支払い開始時期や定年退職時など、節目でアプローチするのはどうか。など

【何を啓発するか】

『地域包括支援センター(以下:包括)のPR。』『老いのイメージを持つことや自分の今後の人生について考えることの大切さについて。』など

- ・まずは何かあった時に「相談する場所は包括」ということを市民が知っていること。
- ・自分の住む地域を担当する包括を知らない人が多い。
- ・動ける時だからこそ、人生を考えてもらいたい。どういう風に年を取っていきたいか。など

【どのように啓発するか】

- ・スライドはよくできているので修正せず、別の啓発も検討する方がよいのではないか。
- ・包括のネーミング（分かりやすく親しみの持てるもの）やインパクトのあるキャッチコピーを検討し、ポスターやチラシ等でPRするのはどうか。
- ・地区ごとに特性があるので、部会で方向性を示した上で、各包括に周知方法を任せるのはどうか。
- ・各包括の現状が異なるため、状況に応じた段階的な啓発が必要ではないか。
- ・事例を使うと、理解しやすく伝わりやすいのではないか。など

○次回は・・・

今回出た意見を整理し、啓発方法を決定します。時期は、12月か1月頃に実施予定です。